

いのちに合掌

慈眼 JIGEN

第41号

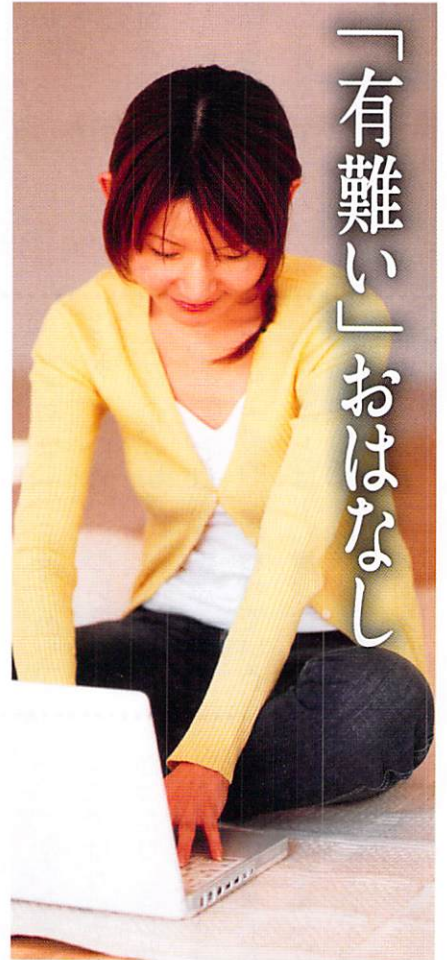
2面…お彼岸ですね
3面…開経偈について
4面…ずいじい(随意意)

「慈眼」とは…
慈悲の心をもって衆生(生きとし生けるもの)を見る仏・菩薩(ぼさつ)の目。

●発行所：日蓮宗佐賀教化センター 佐賀市大和町梅野267-2 親正寺内 ●発行責任者：宝蔵寺学親 TEL 0952-62-0066

日蓮宗佐賀県宗務所ホームページ <http://nichiren-saga.jp/> 日蓮宗佐賀 検索

「有難い」おはなし



便利な暮らし

今から111年前の1903年にライト兄弟の飛行機による有人動力飛行が世界で初めて成功しました。その人類が初めて空に飛び立ったわずか66年後の1969年にアポロ11号が月面着陸をして、今では家庭にしながらパソコンで火星の風の音まで聴ける時代です。

人類有史以来、この僅か1000年ちよつとくらの間に文明は加速度的に発達し、私達は合理性を追求した便利な暮らしに慣れてしまい「有難い」という言葉を忘れてかけているように思います。



もしも今…

そこで、「もしも今、原始時代に戻ってしまったら…」と考えてみましょう。

皆様も毎日お風呂に入られると思いますが、何も無い原始時代にお風呂に入る為にはまず、お湯をためる為の湯船を作ることから始めなければなりません。薪でお湯を沸かす為の鍋ですら自分で作れるかどうか分かりません。水を調達するのも、火を起すのも一大事でしょう。



今考えれば不便な事があたりまえの縄文時代の生活

そう考えたら普通にお風呂に入れることは、とても「有難い」ことです。

お風呂に限らず、食事にしても、身にまとう服にしても、原始時代に戻ってしまったらこれはこれは大変なことです。

欲を少なくして 足るを知る

私達は「利便さ」を優先した生活の中にいますが、「もしもいま原始時代に戻ってしまったら」と考えたら、本当にささやかな事でも有難く、日蓮大聖人の御遺文にも登場するこの「少欲知足(欲を少なくして足るを知る)」を思い出さずにはいられません。

しょうよく 少欲

ちやくそく 知足

お彼岸です

「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉通り、寒い冬に終わりを告げ、やっと春の訪れを感じるようになりました。そんな日は家でゆっくりと過ごしたいところですが、お彼岸のお参りは忘れずに行いましょう。



さて、耳にしたことのある人も多いと思いますが、お彼岸には、凡夫である私たちが**迷いの世界「此岸」から、悟りの世界「彼岸」に至ることを願う、六つの修行(六波羅蜜)**をする期間とされています。

日蓮大聖人は御遺文の中で「**教主釈尊の出世の本懐は人の振舞にて候いける。**」『崇峻天皇御書』

(意味…教主釈尊(お釈迦さま)がこの世に出られた真の目的は、衆生(私たち)がお釈迦さまの教えを日々の生

活の中に振る舞いとして表すことにある)とおっしゃられております。

いくら仏教を学び、お釈迦さまの教えを知っていても、それを日常の行いに生かせなければ意味がありません。その行いというのが先ほど述べた**六波羅蜜**—

- ①**布施**(見返りを求めず、人に施すこと)
- ②**持戒**(自らを戒め、決まりを守って生きること)
- ③**忍辱**(耐え忍ぶこと)
- ④**精進**(努力すること)

⑤**禅定**(心を落ち着け、自身を見つめること)

⑥**智慧**(これらの実践によって物事の道理を知ること)であり、この修行を特に力を入れて行う期間がお彼岸なのであります。

ここでは、六つの修行の一つである「忍辱」についてお話させて頂きます。「忍辱」とは耐え忍ぶことですが、一般的に言われている「忍耐」とは少し意味合いが違います。「忍耐」がただひたすら自分を殺して耐え忍ぶ

ことを指すのに対し、「忍辱」とはそのような苦しみさえも自己の成長、成仏の糧として素直に受け入れる心持ちを指します。プラス思考かマイナス思考かによって、耐えるということも変化するということです。その少しの心の持ち様で、今後の人生に雲泥の差が生まれてくることでしょう。ただ我慢するのではなく、**この辛い苦しみは後の幸せのためにあるのだと、少し考えを変えて、日々の生活を過ごしていけたらいいですね。**

物質的、金銭的に豊かになっても、最終的に幸せだと感じる事が出来るのは「心」が満たされているときなのではないでしょうか。辛かったり、苦しかったりするときはお釈迦さまの前で静かに手を合わせ心からお題目をお唱えしてみてください。姿形を変えて必ず現れて下さいます。

<p>技術本位</p> <p>佐賀の老舗</p> <p>辻の堂のぶつだんや</p> <p>(株)本庄仏具総本店</p> <p>〒840-0832 佐賀市堀川町(辻の堂) ●TEL0952-23-2955(代)</p>	<p>信用本位</p> <p>本下株式会社 草苑</p> <p>OMEGA ALPHA SAAL 本下株式会社</p>
<p>北佐賀草苑 TEL 0952-30-4040 FAX 0952-30-4043 佐賀市兵庫町1115</p>	<p>南佐賀草苑 TEL 0952-25-1255 FAX 0952-25-1088 佐賀市本庄町本庄951-10</p>
<p>大和草苑 TEL 0952-64-8448 FAX 0952-64-8447 佐賀市大和町尼寺722-1</p>	<p>神埼草苑 TEL 0952-53-2334 神崎市神埼町鶴3638-3</p>
<p>鳥栖草苑 TEL 0942-82-6430 FAX 0942-82-6502 鳥栖市古賀351-1</p>	

開經偈について

無上甚深微妙の法は

百千万劫にも

遭遇たてまつること難し

我れ今見聞し受持することを得たり

願わくば如来の第一義を解せん

至極の大乗思議すべからず

見聞触知 皆菩提に近づく

能詮は報身 所詮は法身

色相の文字は即ち是れ応身なり

無量の功德 皆この経に集まれり

この故に自在に冥に薫じ密に益す

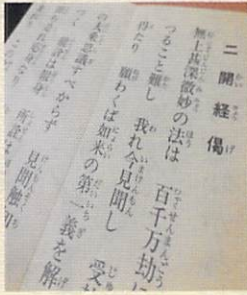
有知無知罪を滅し 善を生ず

もしは信 もしは謗

ともに仏道を成ず

三世の諸仏甚深の妙典なり

生々世々 値遇し頂戴せん



この上なく深遠で優れている仏法は、

たとえ百千万劫という想像もできない長い時間を生きたとしても、出会ふことは難しいと思います。

私たちはいま、そのような仏法に出会い、

その教えを身に受け、心に保つことができました。

願わくば、私達に道をお示しになる御仏の、

もつとも大切な教えを理解することができまますように。

仏法の極みである大いなる教えは、

私達には思い量ることのできないものであります。

しかし、見たり聞いたり感じたり

知つたりすることによつて、

みな無上の悟りに近づいて行くことができるのです。

大乘の教えを明らかにするのは、

長い修行の結果悟りをひらかれた釈尊、

明らかにされる教えは、真理がそのまま

仏陀と二つになった世界、

そして、形に表された經典の一字一文字の文字は、

仏陀が衆生を救う為に現わされたお姿なのです。

このように量り知れない功德が

皆この経に集まつております。

ですから、私達の知らないうちにこの経の功德は、

何のさわりもなく、

私達の身体をかぐわしい香りでつつみ、

ひそかに御利益を与えてくれます。

そして、知恵ある者無知の者も同じく罪を滅し、

善を生じるのです。

また、この教えを信じる者も、

そしる者も共に仏道を成就するでありますよ。

この経は過去世、現在世、未来世にわたる諸仏の、

深遠な境地が示されている、すぐれた經典であります。

幾たび生まれ変わろうとも、この経に会いたてまつり、

おしいだいて信奉いたします。

私達がお勤め等で一番最初に読むの

が、この開經偈です。この開經偈には、お

釈迦様の最も素晴らしい教えである法

華経に出会えた喜びを表したものです。

例えば欲しいものが手に入ると、最

初は喜び、大切にしているものですが、しば

らくするとそれに慣れ最初と同じ気持ち

が徐々に薄れてきます。それと同じ

ように法華経に出会い、ありがたいとい

う気持ち薄れてしまつてはいけま

せん。だから、ありがたいという気持ち

を忘れない確認の意味でもあります。

この開經偈には「もしは信 もしは

謗 ともに仏道を成ず」のとありま

す。この法華経を信じる者も、悪く言

たり非難する者であっても、法華経と

縁が結ばれたことによつて、いつかは

共に仏に成る道に入ることができると

を説いてあるのです。

お釈迦様は私達に仏の種である「仏

種」をさすけてくださいました。この

種が芽をだし仏の花が咲くように見

守つておられます。

その気持ちをいつまでも忘れず、毎

日のお勤めの中で「お釈迦様の教えで

ある最も素晴らしい法華経に出会えた

んだ」と思つて、お唱えして頂きたい

平成25年度・創業91年、仏壇・仏具
の総合専門店

光古賀仏壇店

3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社〒840-0813

TEL(0952)23-5521

佐賀市唐人町1丁目2-25

FAX(0952)23-5564



・仏壇 ・仏具 ・寺院用具
・修理全般 ・別注仏具工事一式

手を合わせるころを大切に……

山本仏具

佐賀市呉服元町10-12
〒840-0824 ☎(0952)

23-4308

ずいじい【随自意】

私達が普段いつも手を合わせお唱えしているお題目とは
どういう意味があり、何の為に唱えしているのだろうか
疑問を持たれたことはありませんか？

お題目とは皆様ご存知の『南無妙法蓮華經』のことです。このお題目の5文字の「妙法蓮華經」はお釈迦さまが説かれた教えである「法華經」のことをいいます。

お釈迦さまの説かれた教えは法華經以外にも一切經といわれるたくさんの經典があります。

お釈迦さまは真実の教えである法華經を最初から説いても私達はその教えが難しく、理解しわかってもらえないと考えられて、あえてお釈迦さまは、わかりやすくやさしい教えから徐々に説いていかれました。最後にお釈迦さまが本当に説きたかった真実の教えである法華經を教え示されたのです。これを「随他意教」・「随自意教」といいます。

「他の意(ごころ)に随った教え」とは「他の意(ごころ)に随った教え」のことです。法華經以前に説かれた教えの



ことで、お釈迦さまがご自身の本心ではなく、相手の意(ごころ)に合わせて説かれた教えのことです。つまり、法華經の説法に導く準備・方便の段階で、これまでの經典では、お釈迦さまは弟子の質問に答える、という形の説法ばかりだったのです。日蓮大聖人は『顯謗法抄』(けんぼうぼうしょう)の中で「法華經以外のお経は、お釈迦さまの言葉であっても、それはお釈迦さまの心ではなく、相手の心をのべたものである」とおっしゃっています。随他意、つまり相手の意(ごころ)に合わせて説かれたお経だからです。

それに対して「随自意教(ずいじいきよ)とは法華經のことです。」「自らの意(ごころ)に随った教え」という意味で、法華經とはお釈迦さまそのもの全てが説かれている真実の教えであるということとです。

お釈迦さまが、ご自身の慈悲の心も、悟

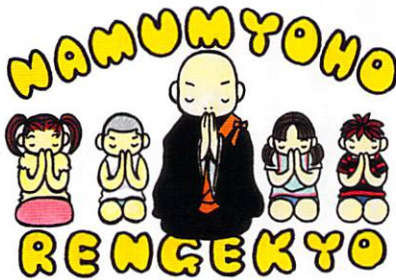



りの智慧も、救済の力も、具(そな)わる功德も、つまりご自身の意(ごころ)を全て込めて、そのまま遠慮なく打ち明けられたのが随自意の教えである法華經なのです。
次に『南無』という言葉の意味は「あなたに従います。全てあなたにお任せいたします。信じ切ります。」という意味でも大切な誓い입니다。

つまり、私達がいつもお唱えしているお題目には【お釈迦さまのみこころが全て説かれた真実の教えである妙法蓮華經を信じてその教えを信じます。】という誓願の意味があるのです。

私達自身がお釈迦さまのおもちである意(ごころ)に近づけるために、これからもお釈迦さまの説かれた真実の教えである法華經を信じて、その教えを実践し

コツコツと少しずつでも良いので継続しお題目をお唱えし続けていきましよう。

立正安国・お題目結縁運動
いのちに合掌

平成三十三年
日蓮聖人御降誕八〇〇年

総合葬祭 株式会社 **黄城**
こう うん かく

葬祭会館 **光雲閣**

〒845-0022
佐賀県小城市三日月町久米 2134-1 (JR小城駅西)

黄城代表番号 ☎(0952)-73-3938
光雲閣 ☎(0952)-73-2020